

五島列島北部地域への移住促進と 佐世保市宇久地域の活性化

長崎県 佐世保市宇久行政センター 産業建設課

五島列島北部地域への移住促進と佐世保市宇久地域の活性化

1 各地域概要

宇久地域（佐世保市）

面積約26.3km²、人口1,888人（R2.10.1時点）、平均年齢63.4歳。

- ・畜産業（繁殖牛）が盛んなほか、宇久ならではの生活が体験できる民泊を活かした観光や、ワーケーションによる移住定住の取り組みを推進
- ・フェリーで佐世保市だけでなく福岡県にもアクセス可能で福岡からの所要時間が他島より短い
- ・西海国立公園の美しい自然と五島文化の始まり、捕鯨・海士などの歴史ロマンあふれる島

小値賀町

面積25.53km²、人口2,288人（R2.10.1時点）、平均年齢59.2歳。

- ・子どもは島の宝「小値賀町ふるさと留学生」で子どもたちの移住も受け入れ
- ・古民家を活用した「古民家ステイ、古民家レストラン」
- ・懐かしい日本の風景が残る「日本で最も美しい村」にも選出された島

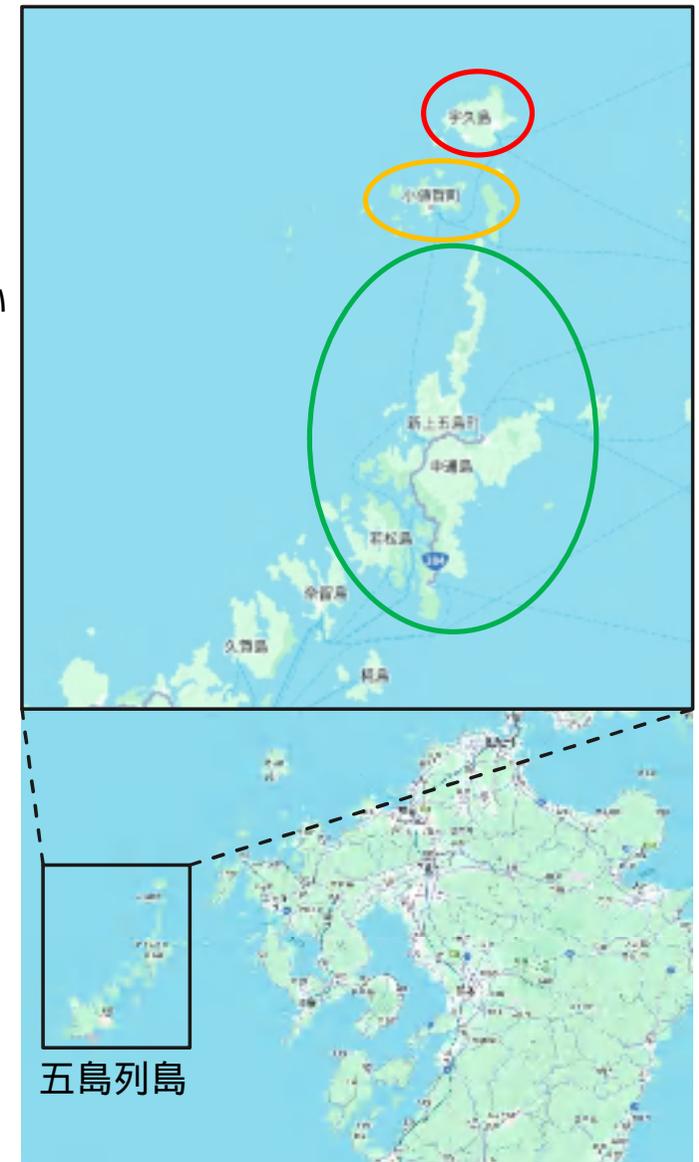
新上五島町

面積213.99 km²、人口17,503人（R2.10.1時点）、平均年齢56.4歳。

- ・雇用の確保や若者の移住定住の取り組みを推進
- ・子どもの育ちを支える「放課後子ども教室」、「しま留学制度」など多彩な支援
- ・歴史的遺産や教会などの文化遺産が多数存在する祈りの島

2 取り組み課題

学生の皆様には、首都圏での 移住促進 と、 地域活性化 に取り組んでいただきたい。



3 取り組み内容

移住促進について

本市では、令和6年度より、行政区が異なる近隣離島である「小値賀町」と「新上五島町」と連携し、スケールメリットを活かした移住促進に係る取り組みを実施することとしています。

主な取り組みは、下記ア・イの2点です。

ア 東京都池袋で毎年秋に開催される移住・観光のPRイベント「アイランダー」の参加。

イ アイランダーの日程に合わせて東京都有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」で離島PRセミナーを開催。

そこで、大学生等の若者や企業等を対象とした集客を図る案内・企画立案等の支援を行っていただきたいと考えています。

【案】関東圏の大学生や若者が興味を持って来たくするような離島PRセミナー（移住相談会等）への集客方法及びプログラムの検討。

各島のこれまでの取り組み状況について

宇久地域（佐世保市）の取り組み

- ・西九州させば移住サポートプラザ（本土）が移住政策を推進。
- ・宇久行政センターはアイランダーやながさき移住サポートセンター主催の移住相談会に参加し、移住相談会を実施。

小値賀町の取り組み

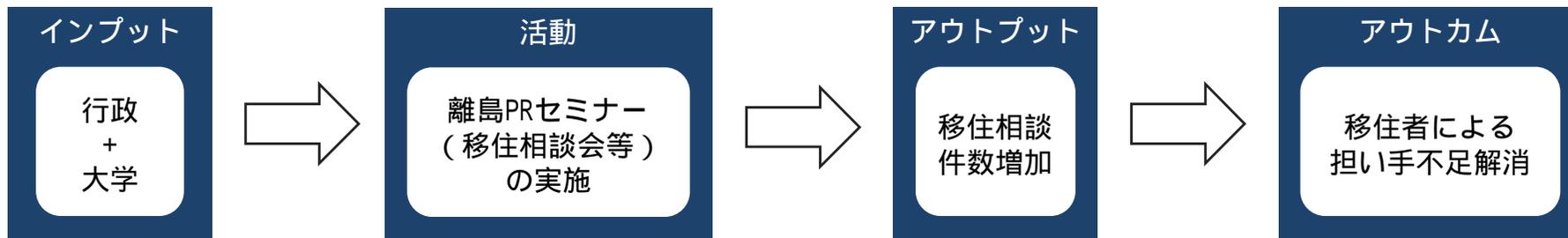
- ・移住支援員の設置 ・定住促進住宅の建設 ・空き家バンク ・移住特設サイトの設置 ・おぢか町移住サポートセンターの設置設計
- ・ながさき移住サポートセンター主催の移住相談会への参加 ・アイランダーでの移住相談会の実施 ・小値賀町移住支援金の拡充予定

新上五島町の取り組み

- ・都市部で開催される移住相談会への参加。
- ・空き家バンク ・移住定住促進住宅の整備 ・ながさき移住サポートセンター、西九州させば移住サポートプラザとの連携

五島列島北部地域への移住促進

ロジック及び行政における成果指標



- ・アウトカムは、人口減少に起因する様々な産業の『担い手不足の解消』で合意しています。
- ・相談件数30件（各島10件）が目標。 令和4年度のアイランダーでの実績は3島で8件。



宇久地域の活性化について

宇久島では自治協議会や産業界団体等の長で構成する「宇久島離島活性化協議会」という地元まちおこし団体があり、市が事務局を担っています。同協議会は「納涼花火大会」と「ふれあい産業まつり」を開催し、まちの賑わいを生んでいます。

同協議会の運営及びイベント開催に係る費用は、地域住民及び事業者による協賛金や提供品です。

しかし、安定した財源がないため、過去の繰越金を取り崩して実施している状況ですので、あと数年で開催困難となる見込みです。そこで、昨年同協議会に新たな部会を立ち上げ、イベントの魅力化などについて協議を始めたところです。

【案】同協議会で安定した資金を確保し、自立的に事業が展開できるための企画立案等を行っていただきたいと考えています。

「納涼花火大会」

- ・ 毎年8月14日に開催。
- ・ お盆の中日であり、多くの帰省客を含め、島の賑わいを生んでいる。
- ・ 昨年の来場者数は約400人。

	費用(千円)
R1	1,338
R2	中止
R3	1,223
R4	1,095
R5	1,341



佐世保市宇久地域の活性化

「ふれあい産業まつり」

- ・ 毎年11月の第2週日曜日に開催。
- ・ 農業協同組合のつきたてのお餅の配布や和牛の販売、漁業協同組合の魚のつかみ取り、商工会や島内事業者の出店等で島内の賑わいを生んでいます。
- ・ 昨年の来場者数は約600人。

	費用(千円)
R1	580
R2	中止
R3	中止
R4	285
R5	235

